

プロフィール

昭和15年2月14日生まれ
86歳 女性

6歳まで満州で育ち、小学1年生になる時に福井県に引き上げ小学校に入学。

学校を卒業後、お見合い結婚し京都で生活。3人の子の母となる。パートをしながら家事子育てをされ、夫亡き後は茨木で三女家族と同居。孫の育児の手伝いをされてきた。大きな病気をされ、闘病生活の後に介護認定を受け喜楽利用を開始された。



介護認定を受けた当初は、要介護4で体力も気力も低下しておられたが、ご家族の支援とご本人の努力のもと、現在は要支援1の認定となるまで回復。現在は喜楽到着時にはデイサービスのフロアがある3階まで階段を使用するなど日々の生活の中で繰り返しの努力を続けられています。何事にも興味を持ち新しいことに次々チャレンジする精神が、今回見事に麻雀で喜楽初の「四暗刻（スーアノコー）」という役満を出されました。四暗刻は0.044%の確率でしか出ないと言われていています。



インタビュー
麻雀を始めたのはいつからですか？
喜楽で初めて麻雀牌を触りました。友人が麻雀教室に通っていて、私もしてみたいなと興味はあったのですが、その機会もありません。喜楽を利用することになり、たまたま「してみませんか」とお声をかけてもらって始めました。

四暗刻がたときのお気持ちは？
まだルールを覚えていた最中で、あの時は捨てる牌がなくなったので、どうすればリーチがかけられるのかわからず全牌をオープンして、どうすればいいか尋ねたら、なんだかみんなが驚いて：「役満」と教えてもらいました。言われた意味がわからず、どこを間違えたんだろうと思いました。
役満の意味を理解した時の気持ちは？
すごいことなんだとわかり「バンザイ」といった気持ちでした。でも、本当にたまたまなので、褒めてもらうには値してないと思っています。でも景品があると聞いてそれが一番うれしいです！
新しいことにチャレンジしていく理由は？
何もせずに過ごすといくら弱ってしまっても、とにかく頭と手先を使って健康を保ちたいと思いついてみました。



これからも続けていきたいし、また新しいことにもチャレンジしていきたいと思っています。
麻雀担当職員 小野 翔太郎より
宮本様は全くの初心者で麻雀の言葉もわからない中、その日は初めての「鳴く」の意味を説明し、とりあえず「チー」はややくしくなるので「ポン」をお伝えしました。教えた当日に「ポン」ではなく「カン」しかも暗槓（自分で積もるカン）をされており：思わず目を疑いました。それからは：もう大騒ぎ（笑）ご本人は謙遜されていますが、めったにできる手ではありません。喜楽第1号役満賞を祝福して今回は特別記念品「アロマタッチ無料券」を進呈させていただきました。これからも頑張ってください。応援しています。